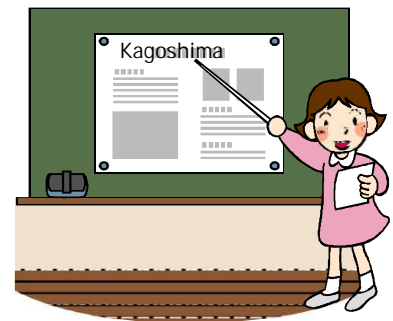


小学校学習指導要領解説Q&A 外国語科



教
学
一
如

教えることは学ぶことである
学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

学習指導要領解説 Q & A について

平成29年3月に公示された学習指導要領について、「教科の『見方・考え方』を働かせる授業って?」「知識の理解の質を高めるとは?」といった先生方の疑問や知りたいことなどを、教科等別にQ & A形式でまとめました。

このQ & Aは、改訂された学習指導要領がこれまでとどんなところが変わったのかを中心にまとめています。



1 ダイジェスト

見開きで改訂のポイントをまとめてあるので、教科等の授業を行う上で大事なことは何かがすぐに分かります。

2 Q & A

コラム欄やワンポイントアドバイス、図、表などを取り入れ、分かりやすく読みやすい内容で解説しています。

Q5 内容Bの食生活「(2) 調理の基礎」で、ゆでる材料「じゃがいもなど」と指定されたのは、なぜですか。

A5 ゆでる材料として、水からゆでるものと沸騰してからゆでるものゆでることによってかさが異なるものは、多くの量を煮ることができ調理の特性を理解できるようにするためです。

「教科等の目標や内容」、「主体的・対話的で深い学びの授業改善」等について、Q & A形式で分かりやすく解説しています。

ここには、「答え (Answer)」に係る補足説明や参考資料などが掲載しているので、「答え」の理由や根拠などが分かります。

家庭科 (9学級)

Q5 内容Bの食生活「(2) 調理の基礎」で、ゆでる材料として「じゃがいもなど」と指定されたのは、なぜですか。

A5 ゆでる材料として、水からゆでるものと沸騰してからゆでるものゆでることによってかさが異なるものは、多くの量を煮ることができ調理の特性を理解できるようにするためです。

コラム

調理の基礎として、ゆでる材料として「じゃがいもなど」と指定されたのは、なぜですか。

ゆでる材料として、水からゆでるものと沸騰してからゆでるものゆでることによってかさが異なるものは、多くの量を煮ることができ調理の特性を理解できるようにするためです。

ゆでる材料として、水からゆでるものと沸騰してからゆでるものゆでることによってかさが異なるものは、多くの量を煮ることができ調理の特性を理解できるようにするためです。

3 活用法

日頃の授業や校内研修、市町村教育委員会や教育事務所主催の研修会、教科等別の教育研究会等では是非活用してください。必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。

目 次

No.	質 問	ページ
1	外国語活動と外国語科における目標の相違点，共通点は何ですか。	1
2	外国語科の目標はどのように設定されていますか。	3
3	外国語活動と外国語科における英語の目標の相違点は何ですか。	5
4	英語の目標はどのように設定されていますか。	7
5	外国語教育における主体的・対話的で深い学びの実現はどのように図ればよいですか。	9
6	「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせるとはどのように捉えたらよいですか。	11
7	「知識及び技能」を身に付けさせる際に留意することは何ですか。	13
8	「思考力，判断力，表現力等」を育成する上で留意することは何ですか。	15
9	言語活動を設定する際に留意することは何ですか。	16
10	「聞くこと」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。	17
11	「読むこと」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。	18
12	「話すこと〔やり取り〕」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。	19
13	「話すこと〔発表〕」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。	20
14	「書くこと」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。	21
15	言語の使用場面や言語の働きに関して留意することは何ですか。	23
16	指導計画を作成する時に留意することは何ですか。	25
17	内容の取扱いについて配慮することは何ですか。	27
18	教材選定についてはどのようなことに配慮すればよいですか。	29
19	道徳教育との関連はどのように図ればよいですか。	31
20	移行期間にはどのような指導を行えばよいですか。	33

小学校外国語科導入のポイント



第5, 6学年に全くの新しい教科として導入される外国語科を理解するために、外国語活動との違いや目標の要点、授業づくりの考え方などの視点で、以下の六つの **Point** をまとめました。

外国語科

Point 何が違う? 外国語活動との関連

中学年外国語活動	高学年外国語科
コミュニケーション能力の 素地 の育成	コミュニケーション能力の 基礎 の育成
【3領域】 聞くこと 話すこと [やり取り] 話すこと [発表]	【5領域】 聞くこと 読むこと 話すこと [やり取り] 話すこと [発表] 書くこと
慣れ親しみ	活用, 定着

Point 目標の要点は? 英語の目標 - 特に留意する項目 -

聞くこと	短い話の概要を捉えることができるようにする。
読むこと	文字を識別し、 名称 を発音できるようにする。 音声で十分に慣れ親しんだ 簡単な語句や基本的な表現が、 写真や絵などの情報とともに 示されたときに意味が分かる。 発音と綴りの関係は、中学校で扱います。
話すこと [やり取り]	設定された場面において、 その場で 質問をしたり質問に答えたりして伝え合うことができるようにする。 やり取りに用いるのは、簡単な語句や基本的な表現です。
話すこと [発表]	伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを表現できるようにする。
書くこと	大文字、小文字を何も見ずに書くことができるようにする。 音声で十分に慣れ親しんだ 簡単な語句や基本的な表現を 書き写す ことができるようにする。 自分のことや身近で簡単な事柄について、 例文を参考に書く ことができるようにする。 アルファベットは四線上に正しく書けるようになるんだ。 何度も聞いたり言ったりして十分に慣れ親しんだ文を書き写せればいいんだね。

外国語によるコミュニケーションにおける見読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、**質・能力を次のとおり育成することを目指す。**

Key Word

「他者に配慮」

知識及び技能を活用し、思考力、判断力、表現力等を働かせる上でのポイントになります。

学びに向かう

外国語の背景にある文**他者に配慮**しながら、主コミュニケーションを図

知識及び技能

外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

上記三つの柱には、「知識及び技能」を實際考えを形成・深化させ、話したり書いたりして生まれ、主体的に学習に取り組む態度が一層するため、**主体的・対話的で深い学び**を通した不

Point 単元などのまとまりを通した授業の流れは? 慣れ親しみの過程

必要な語句や表現に出会う



コミュニケーションを図る楽しさを味わう

Key Word

「言語活動」

実際に英語を使用して自分の考えや気持ちを伝え合う活動を指します。目的や場面、状況を明確にして行います。

Key Word

「場面設定」

活動を行う時は、何のためにそれを行うのかを児童が意識できるように、具体的な場面設定を必ず行います。

効果的な指導のために求められること

深い児童理解

発達の段階に即した指導技術

学校内外の人的・物的資源を効果的に活用する力

深い教材研究

児童の興味・関心を喚起する課題や指導計画を設定する力

外国語の習得過程についての知識

小小連携, 小中連携

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。」

Point 授業改善の視点とは？

主体的・対話的で深い学び

実際に英語を使用して互いの考えを伝え合う言語活動を通して、外国語教育の目指す資質・能力（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）をバランスよく一体的に育成することが大切です。

の目標

方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、して、**コミュニケーションを図る基礎**となる資

力、人間性等

化に対する理解を深め、体的に外国語を用いてろうとする態度を養う。

Key Word

「音声で十分に慣れ親しんだ…」
文字指導を行う前に、音声指導が十分に行われることが重視されています。

思考力、判断力、表現力等

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、**音声で十分に慣れ親しんだ**外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

のコミュニケーションの場面において活用し、表現することを繰り返すことで、児童に自信高まるという関係があります。その実現を図断の授業改善が求められます。

主体的な学び

外国語の学習や外国語によるコミュニケーションに興味や関心をもつ。
生涯にわたって外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かそうとする。
コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定したり理解したりして見通しをもって粘り強く取り組む。
自らの学習やコミュニケーションを振り返り次の学習につなげる。

対話的な学び

他者を尊重して情報や考えなどを伝え合い、自らの考えを広げたり深めたりする。

深い学び

目的や場面、状況等に応じて思考力、判断力、表現力等を発揮する中で、言語の働きや役割に関する理解や外国語の音声、語彙・表現、文法の知識が更に深まり、それらの知識を実際のコミュニケーションで運用する技能がより確実なものとなる。
深い理解と確実な技能に支えられて、「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する力が活用される。

Point 単元の指導は？

資質・能力の育成につながる外国語教育の学習過程

Point 教師の役割は？

主体的・対話的で深い学びを実現する教師の働き掛けの視点

コミュニケーションの目的の設定・理解

面白そう。あの人に英語で伝えたい。



何を伝えようかな。どう伝えればいいかな。

目的に応じた発信までの方向性の決定と言語活動等の見通し

活動は、細かな段階を踏んで設定します。語句や表現は、中学年の内容を含め繰り返し扱います。



伝えることは決めたよ。あの表現が使えるようになりたいな。

目的達成のための言語活動

うまく伝えることができうれしいな。この文は読めるよ。



友達の意外なことが分かって面白い。僕の伝えたいことを英語で書いてみよう。

まとめと振り返り

友達の考えの中には、面白いものがあったな。



友達が使っていたあの表現も使えるようになりたいな。

学習目標の明確化 指導計画のバックワードデザイン

単元などのまとまりで計画します。

見通しをもたせる工夫 目的達成に向けた準備の活動

どの活動も、**場面設定**をした上で行います。

言語活動の計画的な実施

コミュニケーションの相手を意識して、お互いに思いや考えを伝え合う活動を設定します。

言語面・内容面でのフィードバック

単元を通じた学びを客観的に振り返らせます。

外国語活動及び中学校外国語科の目標、内容についての理解
外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢
指導力及び英語力向上のための継続的な研修

特別支援教育の理解
教室英語を駆使する力

外国語活動・外国語科

Q 1 外国語活動と外国語科の目標の相違点，共通点は何ですか。

A 1

- 1 外国語活動は，改訂前の外国語活動とほぼ同じであるのに対して，外国語科は，外国語活動の成果を踏まえた全く新しい教科です。
- 2 外国語活動は，「聞くこと」，「話すこと〔やり取り〕」，「話すこと〔発表〕」の3領域における言語活動を通して，コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を養うことをねらいとしています。外国語科は，「聞くこと」，「読むこと」，「話すこと〔やり取り〕」，「話すこと〔発表〕」，「書くこと」の5領域における言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を養うことをねらいとしています。
- 3 「知識及び技能」については，外国語活動は慣れ親しむこと，外国語科は技能を身に付けることを目標としています。
- 4 「思考力，判断力，表現力等」は，どちらも自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して育成します。外国語活動が音声のみを扱うのに対して，外国語科は「読むこと」や「書くこと」を含んだ言語活動となる点が異なります。
- 5 外国語活動，外国語科のいずれも，より弾力的な指導ができるよう，2学年間を通した目標としています。

柱書き

外国語活動	外国語科
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，話すことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 「知識及び技能」

外国語活動	外国語科
外国語を通して，言語や文化について体験的に理解を深め，日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解するとともに，読むこと，書くことに慣れ親しみ，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

外国語活動は，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことが目標です。

外国語科は，基本的な技能を身に付けることが目標です。ただし，読んだり書いたりすることについての全体的な目標は，「慣れ親しむ」レベルです。

(2) 「思考力、判断力、表現力等」

外国語活動	外国語科
身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

児童が興味・関心を高めるような身近な話題を扱う点では共通しています。

外国語活動では、音声による意味のあるやり取り、すなわち、自分の考えや気持ちなどを音声で伝え合う言語活動を通して、「思考力、判断力、表現力等」を養います。

外国語科では、聞いたり話したりすることに加え、語彙や表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を通して、「思考力、判断力、表現力等」を養います。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」

外国語活動	外国語科
外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語活動では、母語ではない外国語を通して、母語と外国語、日本の文化と外国の文化の相違点や共通点を知り、言語やその背景にある文化の多様性を認め、尊重することを目標としています。「相手」とは、目の前にいる人物を指しています。

外国語科では、広い意味での言語や文化を扱うのではなく、学習の対象となる外国語の言語材料の背景にある文化を通してその多様性を理解し、尊重することが目標です。「他者」とは、目の前の人物に加え、その場にいない人物も含んでいます。

文末の「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」は、外国語活動、小学校外国語科、中学校外国語科の全てで共通しています。このことは、学習者が、間違いを恐れず、自身が持っている知識や技能を総動員してコミュニケーションを図ろうとすることがいずれの段階においても大切であることを表しています。

【参考】中学校外国語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語科

Q 2 外国語科の目標はどのように設定されていますか。

A 2

- 1 高学年における全くの新しい教科として、外国語を用いたコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することをねらいとしています。
- 2 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を明確にした上で、各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から設定されています。

外国語科の目標

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

五つの領域における「自分の考えや気持ちを伝え合う」活動。

「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」とは、外国語科の目標の中心となる部分です。外国語活動の目標である、「コミュニケーションを図る素地となる資質・能力」及び中学校の外国語科の目標である、「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を踏まえて設定されています。

改訂前の外国語活動の目標

- 言語や文化に関する体験的な理解
- 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
- 外国語への慣れ親しみ



小学校外国語科において育成を目指す資質・能力

- 「知識及び技能」
- 「思考力・判断力・表現力等」
- 「学びに向かう力、人間性等」

以下の(1)～(3)に示す「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を一体的に育成する過程を通して「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育成します。

「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話して表現することを繰り返すことで、児童に自信が生まれ、主体的に学習に取り組む態度が一層向上するため、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」と「学びに向かう力、人間性等」は不可分に結び付いています。

(1) 「知識及び技能」

外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解するとともに，読むこと，書くことに慣れ親しみ，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

「知識」

「技能」

日本語との音声の違いにとどまらず，文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについても日本語との違いに気付くこと，さらに，気付きで終わるのではなく，それらが外国語でコミュニケーションを図る際に活用される，生きて働く知識として理解されることが求められています。

外国語活動において外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんだことを生かし，教科として中学校で身に付けるべき技能の基礎的なものを身に付けることとなりますが，「読むこと」，「書くこと」については，慣れ親しませることから指導する必要があり，「聞くこと」，「話すこと」と同等の指導を求めるものではありません。

(2) 「思考力，判断力，表現力等」

② 中学年から単語の綴りが添えられた絵カードを見ながら何度も聞いたり話したりしてその音声に十分に慣れ親しんだ単語が文字のみで提示された場合，その単語の読み方を推測して読むこと。また，場面などを活用して読むこと。

外国語活動と同様，児童がよく知っている人や物，事柄のうち簡単な語彙や基本的な表現で表すことができるもの。
(例) 学校の友達や先生，家族，身の回りの物や自分が大切にしている物，学校や家庭での出来事や日常生活で起こることなど。

コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，身近で簡単な事柄について，聞いたり話したりするとともに，音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

中学年から何度も聞いたり話したりしてその音声に十分に慣れ親しんでいる基本的な表現を書き写す際に，英語で何かを表す際には，決まった語順があることへの気付きを踏まえ，語と語の区切りに注意してスペースを置き，それを意識しながら書くこと。

「思考力，判断力，表現力等」を育成するためには，言語材料を活用し，言語の使用場面に応じて具体的な言語の働きを取り上げ，言語活動を行う必要があります。

(3) 「学びに向かう力，人間性等」

目の前にいない相手も含む。

外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

単に積極的に外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度のみならず，学校教育外においても，生涯にわたって継続して外国語習得に取り組もうとするといった態度。

外国語活動が日本語も含めた様々な言語そのものへの理解や言語の背景にある文化に対する理解を深めることを求めているのに対し，外国語科では，対象となる外国語の背景にある文化に対する理解の深まりを求めています。

外国語活動・外国語科

Q 3 外国語活動と外国語科における英語の目標の相違点は何ですか。

A 3

- 1 外国語活動では、「聞くこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」の三つの領域別の、外国語科では、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の五つの領域別の目標を設定しています。
- 2 外国語活動では、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした言語活動を通して外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めることをねらいとしています。外国語科では、「読むこと」、「書くこと」を加え、技能を身に付けることを目標としています。
- 3 外国語活動の文末が「～するようにする。」となっているのは、目標が慣れ親しむことであるためです。一方、外国語科の「～できるようにする。」とは、技能を身に付けることが目標になるということを示しています。

(1) 聞くこと

外国語活動	外国語科
ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。
イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。	ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。

外国語活動では、「簡単な語句」や「基本的な表現」、「文字」の聞き取りを対象としています。

外国語科では、「簡単な語句や基本的な表現」に加え、「具体的な情報」を聞き取り、「短い話の概要」を捉えることができるようになることが示されています。

いずれの目標においても「ゆっくりはっきり」という条件を示しているのは、教室では児童の実態に応じて速さや明瞭さが調整された英語を使う必要があることを表しています。

(2) 読むこと

外国語活動	外国語科
	ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
	イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

文字に関しては、例えば、A という文字の場合、[ei]と発音された時にAを指し示すこと、Aを指し示された時に[ei]と発音することが自分の力でできることが求められます。

簡単な語句や基本的な表現については、音声で十分に慣れ親しんだもののみを扱い、初めて見る語句や表現を読むことは求められていないことに留意します。

(3) 話すこと [やり取り]

外国語活動	外国語科
<p>ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。</p> <p>イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。</p>	<p>ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。</p> <p>イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。</p> <p>ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて<u>その場で</u>質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。</p>

定型的な表現を用いたやり取りに加えて、自分の考えや気持ちを伝え合うことを対象としている点は共通しています。

挨拶、感謝の表現は外国語活動で扱います。また、外国語活動では、「動作を交えながら」、「サポートを受けて」のやり取りであることが求められます。

外国語科では、「依頼」をすることが加わります。また、「その場で」自分で考え判断して、伝え合うやり取りも求められます。

(4) 話すこと [発表]

外国語活動	外国語科
<p>ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p> <p>イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p> <p>ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p>	<p>ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。</p> <p>イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。</p> <p>ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。</p>

身の回りや自分のことについて、自分の考えや気持ちを話す点は共通しています。

外国語活動では、「人前で実物などを見せながら」話すのに対して、外国語科では、「伝えようとする内容を整理した上で」話すことができるようにします。

(5) 書くこと

外国語活動	外国語科
	<p>ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら<u>音声で十分に慣れ親しんだ</u>簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。</p> <p>イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、<u>音声で十分に慣れ親しんだ</u>簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。</p>

外国語科の書くことについては、文字を（何も見ないで四線上に）書くこと、簡単な語句や基本的な表現を書き写すこと、自分のことや身近で簡単な事柄について例文を参考に書くことができるようにすることを求めています。

書き写したり、例文を参考に（例文を見ながら、自分の書きたいことを単語リストなどの中から選んで）書いたりするものは、「音声で十分に慣れ親しんだ」簡単な語句や基本的な表現であることに留意します。

外国語科

Q 4 英語の目標はどのように設定されていますか。

A 4

- 1 「聞くこと」、「話すこと」を中心とした外国語活動を踏まえ、段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に指導することをねらいとしています。
- 2 小・中・高等学校で一貫した、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別の、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成する目標を設定しています。
- 3 文字や単語などの認識、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き、語順の違い等の文構造への気付きなど、言語能力上の観点から言葉の仕組みの理解などを促すことが求められています。

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと

ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。

「ゆっくりはっきりと話されれば」というのは、明瞭な音声で聞き取りやすく話されることを前提条件として聞き取るということを示しています。

技能として身に付けることが目標ですが、教科として外国語学習に初めて取り組むことから、イラストや写真と結び付けるなどして、自分のことや身近で簡単な事柄について聞き取ることができたという達成感を十分味わわせるようにします。

食べることや食べ物、衣類を着ることや衣類、遊ぶことや遊びの道具など、児童が日々の生活の中で繰り返す出来事や習慣的なこと、あるいはその中で用いたり、接したりするものなど

イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。

誕生日や時刻、値段など児童の日常生活と密接に関連した内容

ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。

大文字、小文字の名称の読み方(Cという文字の名称は/si:/)。

簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明の大まかな内容。

(2) 読むこと

ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。

文字の名称を聞いて、それがどの文字であるかを指し示すことと、指し示された文字の名称を発音することができることを示しています。

イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

日常生活に関する身近で簡単な事柄について、掲示、パンフレットなどから自分が必要とする情報を得たり、絵本などに書かれている簡単な語句や基本的な表現を識別したりするなど、言語外情報を伴って示された語句や表現を推測して読むようにすることを示しています。

語の中で用いられる場合の文字が示す音の読み方を指導することになりますが、小学校では音声と文字とを関連付ける指導に留めます。発音と綴りとを関連付けて指導することは中学校で行います。

(3) 話すこと [やり取り]

ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。

指示や依頼に応じる活動では、応じたり断ったりすることもできるようになることを求めています。相手の依頼に対して、自分で考え判断して、伝えるといったことを大切にします。

生活の中で児童が繰り返す出来事や習慣的なこと、その中で用いたり、接したりするものなど。

イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。

相手とのやり取りの際、それまでの学習や経験で蓄積した英語での話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり、答えたりすることができるようになること。

(4) 話すこと [発表]

ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

聞き手に分かりやすく伝わるように複数あるものの順番を決めたり、選んだりすること。

イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

学校生活や地域に関することで伝えたいこと。

ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

単に学校生活や地域に関する事実などを発表するだけではなく、自分の考えや気持ちなどを聞き手に分かりやすく整理して、人前で話す場合も含めて、話すことができることを目指しています。

(5) 書くこと

ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

大文字及び小文字を四線上に正しく書き分けるようにします。また、語と語の区切りに注意して書き写すことができるようにします。

英語では意味の伝達において語順が重要な役割を担っています。児童に英語の文構造を理解させるために、語の配列等の特徴を日本語との比較の中で捉えて指導を行うことも有効です。

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

英文で書かれた文、又はまとまりのある文章の一部を、例示された語句、あるいは文の中から選んだものに置き換えて、自分に関する文章を書く活動が考えられます。その際、例示された中に児童の表現したい語句、又は文がない場合は、指導者が個別に書きたい語句を英語で提示するなど、児童の積極的に書こうとする気持ちに柔軟に対応する必要があります。

外国語活動・外国語科

Q5 外国語教育における主体的・対話的で深い学びの実現はどのように図ればよいですか。

A5

- 1 主体的・対話的で深い学びは、「知識及び技能」を体験的に身に付けること、「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、「学びに向かう力、人間性等」を涵養^{かん}することが偏りなく実現されることを目指して行われるものです。
- 2 単元など内容や時間のまとまりを見通した授業改善を通して実現を図ります。
- 3 基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、児童の主体性を引き出すなどの工夫を重ね、確実な習得を図ります。
- 4 「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが、「見方・考え方」です。「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげます。

1 主体的・対話的で深い学びの視点 (「外国語活動・外国語研修ガイドブック」から抜粋)

(1) 「主体的な学び」の視点

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』が実現できているか。

外国語教育における「主体的な学び」とは、

外国語を学んだり、外国語を用いてコミュニケーションを行ったりすることに興味や関心をもつこと、生涯にわたって外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かそうとすることを意識すること、

コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定したり理解したりして見通しをもって粘り強く取り組むこと、

自らの学習やコミュニケーションを振り返り次の学習につなげること

です。小学校では、児童がやってみたいという気持ちをもって活動に取り組んだり、楽しみながら活動をしたり、自分の本当の気持ちや考えを伝え合いたいという思いをもって活動をしている時、主体的に学んでいると言えます。

(2) 「対話的な学び」の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

外国語教育における「対話的な学び」とは、表面的なやり取りのことではなく、他者を尊重して情報や考えなどを伝え合い、自らの考えを広げたり深めたりすることです。

小学校では、聞いたり話したりすることが中心となりますが、書かれたもの(絵本など)を読んで社会や世界について知ったり、他者の考え方を学んだり、自らの考えを深めたりすることも、対話的な学びであると考えられていることに留意する必要があります。

(3) 「深い学び」の視点

各教科等で身に付けた資質・能力によって支えられた，物事を捉える視点や考える方法である「見方・考え方」を活用し，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に構想して意味や価値を創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

外国語教育における，「深い学び」とは，

コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて思考力，判断力，表現力等を発揮する中で，言語の働きや役割に関する理解や外国語の音声，語彙・表現，文法の知識がさらに深まり，それらの知識を聞くこと，読むこと，話すこと，書くことにおいて実際のコミュニケーションで運用する技能がより確実なものとなるようにすること

深い理解と確実な技能に支えられて，外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する力が活用されるようにすること

です。

2 外国語教育における学習過程

目的・場面・状況に応じてコミュニケーションを行う言語活動の中で知識・技能がより深く学ばれていくことから，以下のような学習過程を通して主体的・対話的で深い学びの実現を図ります。

外国語教育における学習過程	(例)身の回りの物に関するクイズを出し合う単元
児童が設定されたコミュニケーションの目的や場面，状況等を理解する。	単元の始めの時間に，教師やネイティブ・スピーカー等による単元終末のコミュニケーション活動をデモンストレーションで提示することで，児童がそのやり取りの目的や場面，状況等を理解し，「自分たちもやってみよう」という意欲をもたせるようにする。
目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し，コミュニケーションの見通しを立てる。	クイズを出し合うために必要と思われる簡単な語句や基本的な表現を様々な活動を用いて学習し，尋ねたり答えたりすることができるように，細かな段階を踏んで習得していくようにする。
目的達成のため，具体的なコミュニケーションを行う。	単元の終末の活動として，児童それぞれが，ペアやグループなどで，身の回りのものを当てるクイズを出し合う活動を行う。
言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。	単元最後の自己評価による振り返りを行い，英語と日本語の言い方の相違点や類似点に気付いたり，友達とのやり取りを通して自分や友達のクイズの面白さや工夫などについて感じたりしたことを記録したり，発表し合ったりさせる。

主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか，対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか，学びの深まりをつくりだすために，児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか，といった視点で授業改善を進めます。

外国語活動・外国語科

Q 6 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせるとはどのように捉えたらよいですか。

A 6

- 1 外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、外国語教育の本質と捉えることができます。
- 2 外国語教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の鍵となるものです。
- 3 毎時間の授業を「見方・考え方」を意識したものにより、児童は外国語教育で大事にされている物事の見え方や考え方を理解し、個別の知識・技能が、統合された概念へと高められることが期待されます。
- 4 小学校における外国語教育においては、「外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉える」点を重視します。

1 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」

「見方・考え方」が、外国語で他者とコミュニケーションを行うためのものであることを示している。

社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすること。

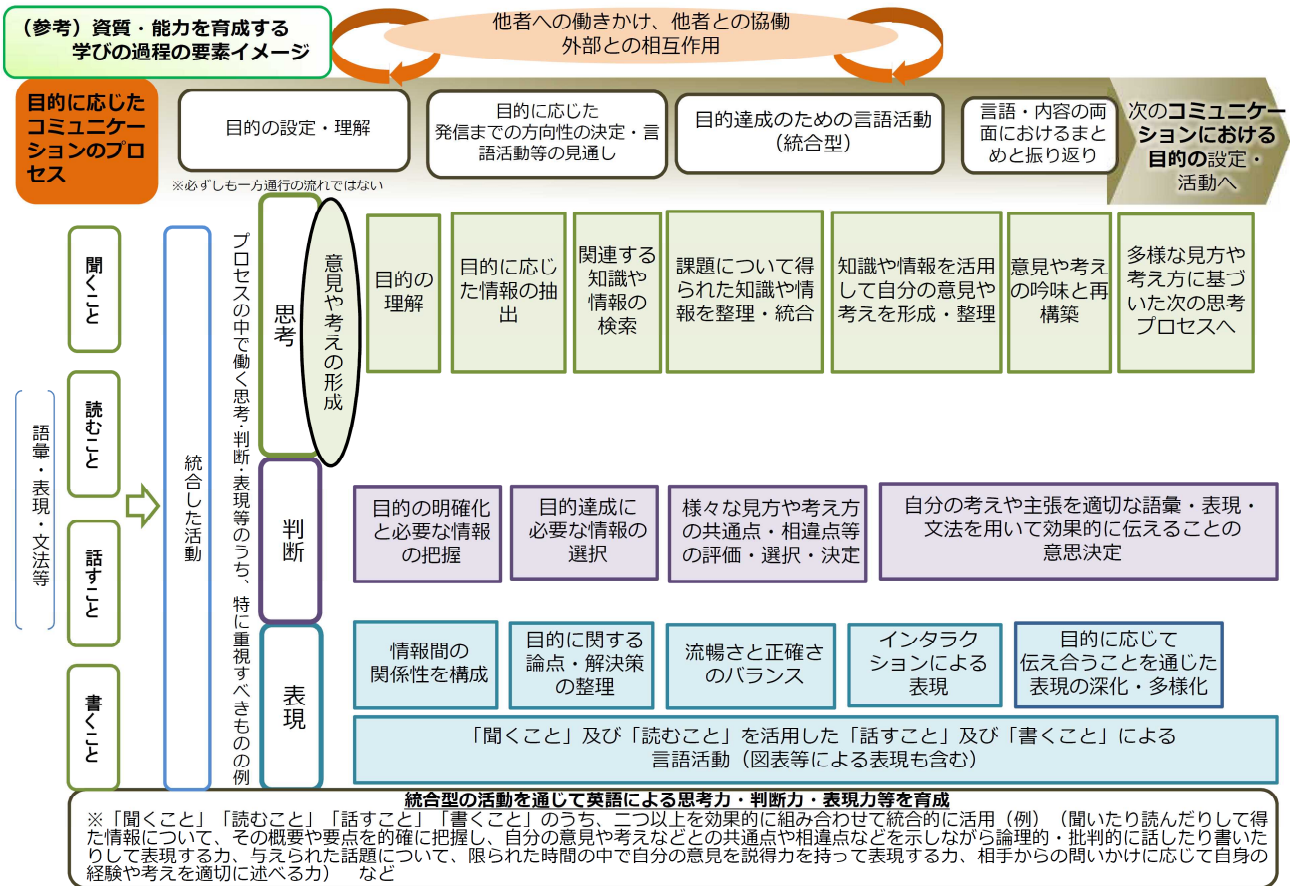
外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて、既習のものも含めて習得した概念（知識）を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、身に付けた思考力を発揮させたりすること。

外国語で他者とコミュニケーションを行うには、社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすることが重要です。また、日本語を含む言語でコミュニケーションを図る難しさや大切さを改めて感じることは、言語によるコミュニケーション能力を身に付ける上で重要であり、言語への興味・関心を高めることにつながるため、小学校外国語教育では、の「外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉える」点が重視されています。

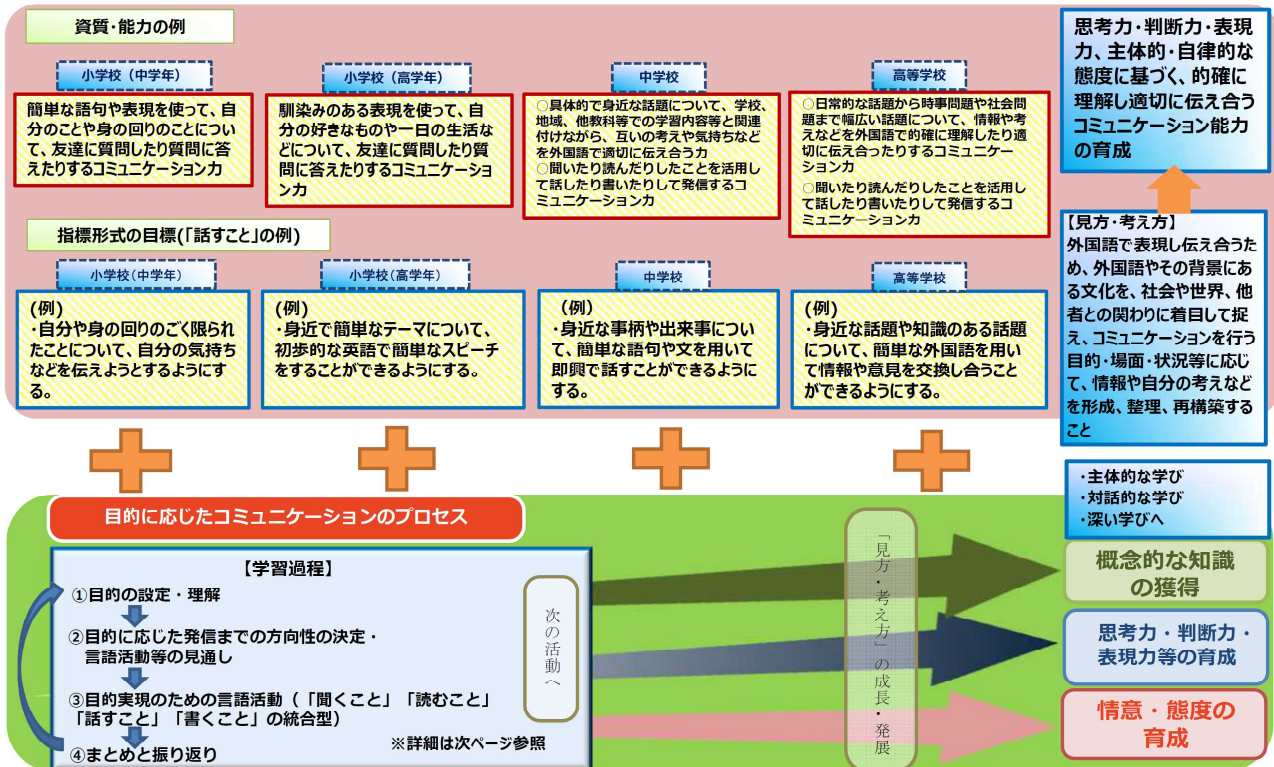
2 授業改善の鍵としての「見方・考え方」

外国語によるコミュニケーションの一連の過程を通して、「見方・考え方」を働かせながら、自分の思いや考えを表現することなどを通じて、児童の発達段階に応じて「見方・考え方」を豊かにすることが大切です。この「見方・考え方」を確か豊かなものとする中で、学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界の在り方を主体的に結び付ける学びが実現され、学校で学ぶ内容が、生きて働く力として育まれることとなります。さらに、こうした学びの過程が外国語教育の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながります。



外国語教育における「見方・考え方」を働かせた深い学びと資質・能力の育成(イメージ)

小・中・高等学校で一貫した目標(指標形式の目標を含む)の下で、発達段階に応じた「学習過程」を経ることによる思考力や判断力の深まり、外国語による表現力の向上、主体的・自律的に学習する態度の育成などを通じ、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力を育成



外国語科

Q7 「知識及び技能」を身に付けさせる際に留意することは何ですか。

A7

- 1 「知識及び技能」は、学習指導要領において「英語の特徴やきまりに関する事項」として示される言語材料であり、「音声」、「文字及び符号」、「語、連語及び慣用表現」、「文及び文構造」で構成されています。
- 2 「アルファベットの文字、単語の認識」、「国語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き」、「語順の違いなど文構造への気付き」など、言語能力向上の観点から言葉の仕組みの理解を促す指導を行います。
- 3 知識や技能を実際のコミュニケーションで活用できるように指導します。その際、言語材料を常に言語活動と併せて指導することが大切です。

「知識及び技能」の内容

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、次に示す言語材料のうち、1に示す五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

- ・ 外国語活動の「知識及び技能」は、「言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること」、「日本と外国の言語や文化について理解すること」です。

ア 音声

次に示す事項のうち基本的な語や句、文について取り扱うこと。

- (ア) 現代の標準的な発音
- (イ) 語と語の連結による音の変化
- (ウ) 語や句、文における基本的な強勢
- (エ) 文における基本的なイントネーション
- (オ) 文における基本的な区切り

- ・ 日本語の発音にはない母音や子音があること、また、発音が子音で終わったりすることなど、日本語と英語の音声の特徴や違いに気付かせ、多様な人とのコミュニケーションが可能となる発音を身に付けさせます。
- ・ 一語一語を切り離して発音せず、複数の語を連続して発音することが多いことを踏まえて慣れさせるようにします。音の変化の指導に当たっては、音声で十分に慣れ親しんだ表現として繰り返し触れさせるとともに、英語のリズムを大切にしながら発音させるようにします。
- ・ 英語の語や句、文には、それぞれ強く発音される部分とそうでない部分があり、強勢があることによって英語特有のリズムが生まれることに気付かせるようにします。
- ・ 音声で十分に慣れ親しんだ表現について、基本的なイントネーションに気付き、話す場合に用いることができるように指導します。
- ・ 文における区切りは、まとまった表現として音声に十分に慣れ親しませる中で扱います。

イ 文字及び符号

- (ア) 活字体の大文字，小文字
- (イ) 終止符や疑問符，コンマなどの基本的な符号

- ・ 文字指導に当たっては，文字の細部を指導するのではなく，コミュニケーションを行うために文字を書くことを意識させ，ほかの文字と区別して認識できるように丁寧に書いたり，適度な速さで書いたりすることを意識させます。また，第3学年国語科において日本語のローマ字表記が指導されていることを踏まえ，指導の工夫をします。

get up , look at などのように，二つ以上の 語が結び付いて，まとまった意味を表すもの。

ある特定の場面で用いる定型的な表現。

ウ 語， 連語及び 慣用表現

- (ア) 1 に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる，第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600～700語程度の語
- (イ) 連語のうち，get up , look at などの活用頻度の高い基本的なもの
- (ウ) 慣用表現のうち，excuse me , I see , I'm sorry , thank you , you're welcome などの活用頻度の高い基本的なもの

- ・ 履修する語には，意味が理解できるように指導すべき語彙（受容語彙）と，表現できるように指導すべき語彙（発信語彙）とがあります。小学校段階では，聞いて意味を理解できるようにする語彙と，話して表現できるようにする語彙が中心となります。

エ 文及び文構造

次に示す事項について，日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに，基本的な表現として，意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。

文の中に主語と動詞が一つだけ含まれるもの。

- (ア) 文
 - a 単文
 - b 肯定，否定の平叙文
 - c 肯定，否定の命令文
 - d 疑問文のうち，be 動詞で始まるものや助動詞(can ,do など)で始まるもの，疑問詞(who , what , when , where , why , how)で始まるもの
 - e 代名詞のうち，I , you , he , sheなどの基本的なものを含むもの
 - f 動名詞や過去形のうち，活用頻度の高い基本的なものを含むもの
- (イ) 文構造
 - a [主語 + 動詞]
 - b [主語 + 動詞 + 補語]のうち，
主語 + be 動詞 + 名詞 / 代名詞 / 形容詞
 - c [主語 + 動詞 + 目的語]のうち，
主語 + 動詞 + 名詞 / 代名詞

否定文は語形変化 (don't , isn't , can't) を伴うことがあるため，肯定文との違いに留意します。

- ・ 文法の用語や用法の指導を行うのではなく，言語活動の中で日本語と英語の語順の違い等の気付きを促すようにしたり，基本的な表現として繰り返し聞いたり話したりするなどして活用したりします。

外国語科

Q 8 「思考力，判断力，表現力等」を育成する上で留意することは何ですか。

A 8

- 1 外国語科で育成すべき「思考力，判断力，表現力等」は，外国語を通じて，身近で簡単な事柄について，音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりするとともに，聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力と捉えることができます。
- 2 「思考力，判断力，表現力等」は，外国語によるコミュニケーションを行う目的や場面，状況等に応じて，既得の知識や経験と，理解した情報を整理しながら自分の考えなどを形成し，それを表現することを通して養います。

「思考力，判断力，表現力等」の内容

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，これらを表現することを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

外国語教育においては，児童が，

設定されたコミュニケーションの目的や場面，状況等を理解する，

目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し，コミュニケーションの見通しを立てる，

目的達成のため，具体的なコミュニケーションを行う，

言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行うというプロセスを経ることで，学んだことの意味付けを行ったり，既得の知識や経験と，新たに得られた知識を言語活動へつなげ，「思考力，判断力，表現力等」を高めたりすることが大切です。

自分のこと，友達や家族，学校生活など。

場面や状況を考えながら，どのような事柄を取り上げ，どのような順序で伝えたほうがよいのかなどについて考えること。

ア 身近で簡単な事柄について，伝えようとする内容を整理した上で，簡単な語句や基本的な表現を用いて，自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

- ・ コミュニケーションを行う際は，英語で伝え合うだけでなく，自分の考えと相手の考えを比較したり，新たな考えを知識として取り入れたりしながら，自分の考えを再構築するようにします。

自分のこと，友達や家族，日常生活など。

絵や写真等，言語外情報を伴って示されるもの。

イ 身近で簡単な事柄について，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりすること。

【活動例】

- ・ 外国の友達からの写真を伴う英文のメールを読み，自分の日課との共通点と相違点を捉え，返事をどのように書くのか考えながら絵や写真と結び付けて英語の意味を推測して読む活動。
- ・ 音声で十分慣れ親しんだ語句が文字のみで示された場合，文字の音を頼りに，その語句の読み方を推測して読む活動。
- ・ 外国の姉妹校の同級生とメールや手紙で「将来の夢」について伝え合い，自分たちの夢との共通点や相違点を知ることで，多様な考え方や価値観に触れる活動。

外国語科

Q9 言語活動を設定する際に留意することは何ですか。

A9

- 1 「思考力、判断力、表現力等」を育成するに当たり、「知識及び技能」を活用して、五つの領域ごとの具体的な言語活動を通して指導します。
- 2 言語活動を設定するに当たっては、単に繰り返し活動を行うのではなく、児童が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために、必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにします。
- 3 「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の言語活動においては、外国語活動における言語活動を踏まえて、外国語活動において扱われた簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し使わせ、児童が活用できるようにします。
- 4 「読むこと」、「書くこと」の言語活動においては、コミュニケーションの目的や場面、状況を具体的に設定した上で、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて相手の意向を理解したり、自分の気持ちや考えなどを伝え合ったりするようにします。

1 言語活動に関する事項

知識及び技能

言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば次のような言語活動を通して指導する。

思考力・判断力・表現力等

2 外国語科の言語活動

領域	外国語科
聞くこと	(ア) 自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。 (イ) 日付や時刻、値段などを表す表現など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。 (ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。
読むこと	(ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。 (イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。 (ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。 (エ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。
話すこと [やり取り]	(ア) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。 (イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。 (ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動。
話すこと [発表]	(ア) 時刻や日時、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。 (イ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。 (ウ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。
書くこと	(ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。 (イ) 相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。 (ウ) 相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。 (エ) 相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。

外国語科

Q10 「聞くこと」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。

A10

- 1 「聞くこと」の言語活動には、身近で簡単な事柄について、イラストや写真などと結び付けたり、具体的な情報を聞き取ったり、必要な情報を得る活動があります。
- 2 知識として語句や表現を与えるのではなく、音声と事物を結び付ける活動を通して、児童自身がその意味を理解し語句や表現に慣れ親しんでいくようにします。
- 3 児童が何を聞き取ればよいのか、また何を聞き取りたいのかを明らかにし、目的意識をもった聞き方ができるように指導します。

(ア) 自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。

【活動例】

- ・ A L T が、“We have a fireworks festival in my country. It is not in summer. It is in winter.” などと自国で行われている花火大会のことを紹介する英語を聞いて、その A L T の国で花火大会が行われる月を表すカレンダーの絵を選ぶ活動など、聞いて理解した内容とイラストや写真に描かれている非言語情報とを照らし合わせる活動。
- ・ 持っているものを紹介する英語を聞いて絵に丸を付け、自分と相手との共通点を探す活動。
- ・ 誌面にある異なる施設が描かれているいくつかある市の絵を見ながら、“In my city, we have a swimming pool.” という英語を聞いて、「My city」が描かれた絵を選ぶ活動 など。

(イ) 日付や時刻、値段などを表す表現など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。

【活動例】

- ・ 自己紹介の場面で、学級の友達の誕生日や好きな季節などを聞き取ったり、「話すこと[やり取り]」(イ)に取り組む中で、話し手が先週の休日に行った場所やそこでしたことなどを聞き取ったりする活動。

(ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。

この活動に取り組む前に、何を聞き取ればよいのか、また、何を聞き取りたいのかを明らかにし、目的意識をもった聞き方ができるようにします。

【活動例】

- ・ 教師が、“Hello. I want to be a pilot. I want to visit many countries. …” などと話している英語を、その内容に関係するイラストや写真を見ながら聞き、就きたい職業、その理由などの情報を聞き取り、その話し手が誰なのかを選ぶ活動。

外国語科

Q11 「読むこと」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。

A11

- 1 「読むこと」の言語活動には、文字を識別したり、発音したりする基礎的な活動、視覚的な情報を頼りに必要とする情報を得る活動、簡単な語句や基本的な表現を識別する活動があります。
- 2 音声を十分に聞かせた上で、繰り返し言うなどの様々な活動を通してそれらに慣れ親しませた文字や簡単な語句、基本的な表現を読ませます。
- 3 文字を識別し、語句の意味を捉えるために、文字の音の読み方を指導する際は、児童が文字の名称の読み方との混同や種類の多さによる混乱から難しさを感じることがないようにします。
- 4 英語を読ませる前に、それぞれの語と表現について音声で十分に慣れ親しむ活動、活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動、絵カードに語を書き添えてそれを使用し続けるなどにより、語を一つのまとまりとして徐々に認識する活動に取り組みさせるようにします。

(P) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。

【活動例】 A, B や a, b という文字を見て、それらが、/eɪ/, /bi:/ を表した文字であると認識すること。

- ・ 自己紹介の場面で、自分の名前を“My name is Haruna.”と紹介した後、“H, a, r, u, n, a.”と自分の名前の綴りを言って、自分の名前を相手に伝える活動。
- ・ 文字を一文字ずつ読んで音声に慣れ親しんだ後、a p c d o g u w c a t x p などと不規則に並んで書かれた活字体の文字を見ながら、“d /di:/, o /ou/, g /d í / . Dog.”という音声を聞いて該当する箇所 (dog) を丸で囲むなどの活動。

文字の名称の読み方。

(I) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。

文字がもつ音のうち代表的なものを取り上げ、次の(ウ)や(I)の言語活動につなげるようにします。

【活動例】

- ・ ‘k’ や ‘t’ が /k/ や /t/ と発音することを ‘koala’ や ‘ten’ などの簡単な語を使って音声に慣れ親しませた後、k や t で始まる思い付く単語を、ペアやグループで協力しながら制限時間内にできる限り多く言わせる活動。

写真や絵などの視覚材料を伴う語句や1～2文程度の単文からなる英語が書かれたもの。

(ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。

【活動例】

- ・ 海外旅行のパンフレットを模した誌面を読んで、行きたい国で有名な食べ物やお勧めの季節などの情報を得る活動。
- ・ テレビ番組欄を模した誌面を読み、曜日や見たいスポーツ(スポーツ番組名)などの情報を得る活動。

絵や写真が多く、主題やストーリーが明確で、テーマについて話の展開が分かりやすく書かれているもの、同じ表現を繰り返し使って書かれているもの。絵本のほか、日記や身近な事柄についての紹介文など。

(I) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。

【活動例】

- ・ 簡単な語句や基本的な表現を識別する前に、絵本の読み聞かせを、児童とやり取りしながら行う中で、“What color is this? Yes! It’s red.”と色に着目させるやり取りをする活動。
- ・ 小学校生活の思い出アルバムを作成し、互いのアルバムを読んで、相手の思い出が何なのかを理解する活動。

外国語科

Q12 「話すこと [やり取り]」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。

A12

- 1 「話すこと [やり取り]」の言語活動には、挨拶、指示や依頼とそれらに応じたり断ったりする活動、自分の気持ちや考えなどを伝えたり、質問したり答え合ったりする活動、質問にその場で答えたり質問をしたりして短い会話をする活動活動があります。
- 2 児童が自分の考えをもつことができるようになる指導を必要に応じて行います。
- 3 児童がやり取りを継続したり、即興的に質問をしたり、質問に答えたりできるようにするためには、教師が児童と身近な話題について英語を使って簡単なやり取りをすること、そのようなやり取りの機会を継続的にもつこと、そして、そのやり取りの中で、教師が当該表現を意識的に繰り返し使用するといった「やってみせる指導」が大切です。また、言葉が正しく使えていたかだけでなく、話されている内容そのものにも意識を向けることを大切にします。その上で、長いスパンをかけて活動に取り組みせるようにします。

(ア) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。

自己紹介をした後、その内容についてやり取りをする活動を行えば、(ア)と(イ)を併せて指導することができます。

【活動例】

- ・ 年度初めにクラスメイトと行う自己紹介や、道案内、レストランで客と店員になりきって行う活動。

(表現例) A : What would you like?

B : I'd like pizza.

A : OK. How about drinks?

B : No, thank you.

(イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。

この事項では、必ずしも即興性が求められているわけではありません。

【活動例】

自分が好きな日本の食文化について互いの考えや気持ちを伝え合う活動。

(表現例) A : I like sushi very much. It's delicious.

B : You like sushi. Me, too. Sushi is delicious. I like salmon. Do you like it(salmon)?

A : Yes. I like tuna, too. How about you?

(ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動。

「その場で」とは、「自分に関する」話題について、「簡単な」質問をしたりして「短い」会話という条件の下で即興的に行うことを示しています。

【活動例】

好きなスポーツについての複数の質問にその場で答える活動。

(表現例) A : What sports do you like?

B : I like baseball.

A : Do you like ~ (野球選手の名前)?

B : Yes.

外国語科

Q13 「話すこと[発表]」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。

A13

- 1 「話すこと[発表]」の言語活動には、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動、自己紹介をする活動、身近で簡単な事柄について自分の考えや気持ちなどを話す活動があります。
- 2 扱われる語句については、一度に限って指導するのではなく、視聴覚教材などを活用しながら聞かせることで意味を捉えることができるようにし、その後の授業で繰り返し使用するなど、何度も聞いたり言ったりすることができるような指導を行う必要があります。
- 3 全ての児童が自分の考えをもったり、それを伝えるための英語表現を言うことができるようになったりするための指導を、単元や単位時間の授業の中で行うようにします。
- 4 話すための準備や練習をさせる時は、発音やイントネーションなどの音声に関する指導を行います。

(ア) 時刻や日時、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。

【活動例】

- ・ 自分の休日の過ごし方について説明する活動

(表現例) On Sunday, I usually get up at seven. I always walk with my dog. I usually eat breakfast at eight.

(語彙例) 数字、月、曜日、場所を表す前置詞などの語句

get, walk, do, brush, check などの動詞

always, usually, sometimes などの頻度を表す副詞

(イ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。

【活動例】

- ・ 年度初めに、学級の児童一人一人が自己紹介をし合う活動
- ・ (ア)の事項と関連付けて、いくつかの動詞や頻度を表す副詞を使って自己紹介をする活動
- ・ 「話すこと[やり取り]」(ウ)の事項と関連付けて、まずは複数人と自己紹介をし合い、そこで得た情報を踏まえて、自己紹介し合った中の誰かになりきって話し、誰になりきっているかを当てる活動。

(表現例) My name is ~. My birthday is ~. I like/have/play/watch ~. I can ~. I'm good at ~. I want to ~.

(ウ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。

【活動例】

- ・ 中学校生活への期待等を学級全体やグループの前で話す活動

(表現例) Hello, everyone. I want to join the badminton club. I like badminton very much. I want to make many friends. Thank you.

外国語科

Q14 「書くこと」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。

A14

- 1 「書くこと」の言語活動には、文字を書く活動、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写す活動、例の中から言葉を選んで文を書く活動があります。
- 2 文字の読み方について十分慣れ親しませ、識別したり発音したりさせた後に、この事項の活動に取り組みせるという順序性を踏まえた指導を行います。
- 3 大文字、小文字を一度に全て取り扱うのではなく、児童の実態に応じて一度に取り扱う文字の数や種類に配慮します。
- 4 いわゆる「ドリル学習」のような、単調な繰り返しの学習に終始するのではなく、書く目的をもたせたり、ゲーム的要素を取り入れたりするなど、児童の学習意欲を高める工夫をします。
- 5 「書くこと」の活動を行う場合は、十分な時間を確保するとともに、四線上に正しく書くことができるようにします。
- 6 年間を通じて、文字を書くことができているか、できるようになってきているかを丁寧に見届け、指導に生かします。
- 7 ローマ字については、国際的な共通語として英語を使用する観点から、できるだけ日本語の原音に近い音を英語を使用する人に再現してもらうために、いわゆる「ヘボン式ローマ字」で表記することを指導します。

文字の名称の読み。

(ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。

【活動例】

何も見ることなく児童が自分の力で書く。

- ・ 電話でのやり取りの場面で、活字体によるメールアドレスを互いに伝え合い、それを書く活動。

(イ) 相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。

【活動例】

語句を見ながらそれらをそのまま書く。

- ・ 諸外国の魅力などについての英語を聞いて、内容や表現を知り、それらの表現に音声で十分に慣れ親しませてから、自分が行ってみたい国について互いに伝え合い、国名を表す名詞を読んで意味が分かるようにした後、国名一覧を見ながら、自分が行きたい国の国名を表す語を書き写す活動。

(ウ) 相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。

【活動例】

文を見ながらそれらをそのまま書く。

- ・ 一日の学校生活についての英語を聞いて、内容や英語表現を知り、それらの英語表現に音声で十分に慣れ親しませ、やり取りの活動を行った後に、誌面上で何人かの登場人物が書いている英文(We study/have English on Monday and Wednesday. We study/have English on Tuesday and Thursday. など)を読み、自分自身の学級で英語の授業がある曜日を表現できるよう、書かれている英文を見ながら一文を書き写す活動。

(エ) 相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。

例となる文を見ながら、自分の考えや気持ちを表現するために、例となる文の一部を別の語に替えて書く。

【活動例】

- ・ 自分が好きな人やことを他者に紹介する活動において、“I like baseball. My favorite baseball player is ~.”を例として、自分の考えや気持ちを表現するために、baseballなどの語を替えて、“I like music. My favorite musician is ~.”と書く活動。

(参考資料) 学習指導要領における言語活動一覧表

	小学校外国語活動	小学校外国語科	中学校外国語科
ア 聞くこと	<p>(ア) 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容を分かったりする活動。</p> <p>(イ) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。</p> <p>(ウ) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動。</p>	<p>(ア) 自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。</p> <p>(イ) 日付や時刻、値段などを表す表現など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。</p> <p>(ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。</p>	<p>(ア) 日常的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握する活動。</p> <p>(イ) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。</p> <p>(ウ) 友達からの招待など、身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞いて、その内容を把握し、適切に応答する活動。</p> <p>(イ) 友達や家族、学校生活などの日常的话题や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を把握する活動。また、その内容を英語で説明する活動。</p>
イ 読むこと		<p>(ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。</p> <p>(イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。</p> <p>(ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。</p> <p>(イ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。</p>	<p>(ア) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする活動。</p> <p>(イ) 日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動。</p> <p>(ウ) 簡単な語句や文で書かれた日常的话题に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。</p> <p>(イ) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。</p>
ウ 話すこと(やり取り)	<p>(ア) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示、依頼をして、それらに応じたりする活動。</p> <p>(イ) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う活動。</p> <p>(ウ) 自分や相手の好み及び欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。</p>	<p>(ア) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。</p> <p>(イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。</p> <p>(ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動。</p>	<p>(ア) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。</p> <p>(イ) 日常的话题について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。</p> <p>(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動。</p>
エ 話すこと(発表)	<p>(ア) 身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。</p> <p>(イ) 自分の好き嫌い、欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。</p> <p>(ウ) 時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動。</p>	<p>(ア) 時刻や日時、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。</p> <p>(イ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。</p> <p>(ウ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関する事柄など、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。</p>	<p>(ア) 関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。</p> <p>(イ) 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。</p> <p>(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。</p>
オ 書くこと		<p>(ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。</p> <p>(イ) 相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。</p> <p>(ウ) 相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切り注意到、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。</p> <p>(イ) 相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。</p>	<p>(ア) 趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動。</p> <p>(イ) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動。</p> <p>(ウ) 日常的话题について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。</p> <p>(イ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。</p>

外国語科

Q15 言語の働きや言語の使用場面に関して留意することは何ですか。

A15

- 1 場面設定を工夫し、場面を意識させながら十分に音声で慣れ親しんだ語句や表現を、細かな段階を踏んで読んだり書いたりして慣れ親しませる活動を通して、児童が「読むこと」や「書くこと」の有用性を感じ、読んでみたい、書いてみたいと思わせるような展開の工夫をします。
- 2 身振りや表情などの非言語的要素の活用も重要であることを指導します。

1 「言語の使用場面」の例

場面	例
児童の身近な暮らしに関わる場面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭での生活 ・ 学校での学習や活動 ・ 地域の行事 など
特有の表現がよく使われる場面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶 ・ 自己紹介 ・ 買物 ・ 食事 ・ 道案内 ・ 旅行 など

2 「言語の働き」の例

場面	例
コミュニケーションを円滑にする	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶をする ・ 呼び掛ける ・ 相づちを打つ ・ 聞き直す ・ 繰り返す など
気持ちを伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 礼を言う ・ 褒める ・ 謝る など
事実・情報を伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明する ・ 報告する ・ 発表する など
考えや意図を伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 申し出る ・ 意見を言う ・ 賛成する ・ 承諾する ・ 断る など
相手の行動を促す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問する ・ 依頼する ・ 命令する など

3 「言語の使用場面」の表現例

(1) 児童の身近な暮らしに関わる場面

場面	表現例
家庭での生活	A : What time do you get up? B : I usually get up at six. A : Do you like soccer? B : Yes , I do. I like playing soccer. What do you like? (How about you?) A : I like fishing. I enjoy it on Sundays.
学校での学習や活動	A : Do you have Japanese class on Wednesdays? B : Yes, I do. (No, I don't. I study math on Wednesdays.) A : What is your best memory in your school life? B : My best memory is our school trip. We went to Okinawa. It was exciting.
地域の行事	A : Let's go to the summer festival. B : Yes, let's. (I'm sorry I can't.) A : I like my town. We have a big park. But we don't have a gym. I want a gym.

(2) 特有の表現がよく使われる場面

場面	表現例	
挨拶	A : Good morning, everyone. B : Good morning, (Ms. Komatsu).	A : Hello, (Takeshi). How are you? B : I'm fine, thank you. How are you?
自己紹介	A : Hello, my name is (). Nice to meet you. B : Hello, my name is (). Nice to meet you, too.	A : Hi, I'm (). I'm from Brazil. I like soccer. B : Oh, you can play soccer very well.
買物	A : How much is the bag? B : It's nine hundred yen.	A : What fruits do you want? B : I want apples and bananas.
食事	A : What would you like? B : I'd like pizza.	A : How much is it? B : It's two hundred yen.
道案内	A : Where is the treasure box? B : Go straight. Turn left. You can see a house. It's in the house. You can see it on your right.	A : Where is the park? B : Go straight for three blocks. Turn right. You can see it on your right.

4 「言語の働き」の表現例

言語の働き		表現例	
コミュニケーションを円滑にする	挨拶をする	Good morning.	Good afternoon.
	呼び掛ける	Hello, Ken.	Excuse me.
	相づちを打つ	A : I want to be a vet. B : Oh, I see.	A : He is a good baseball player. B : Right.
	聞き直す	Sorry?	A : I always wash the dishes. B : Always?
	繰り返す	A : I have a dog. B : Oh, a dog.	A : I went to Osaka. B : Osaka. I see.
気持ちを伝える	礼を言う	Thank you very much.	Thanks.
	褒める	Great.	Good job.
	謝る	Sorry.	I'm sorry.
事実・情報を伝える	説明する	This is my favorite place.	She is a good tennis player.
	報告する	She can play volleyball well.	We went to Kyoto.
	発表する	This is my hero. He is ~.	My best memory is our school trip. We went to ~.
考えや意図を伝える	申し出る	May I help you?	It's my turn.
	意見を言う	I want to watch wheelchair basketball on TV.	It is exciting.
	賛成する	Yes, let's.	That's a good idea.
	承諾する	A : Let's play baseball. B : O.K.	A : I want to play basketball. B : Me, too.
	断る	A : May I help you? B : No, thank you.	A : Let's play basketball. B : Sorry. I can't play basketball.
相手の行動を促す	質問する	A : What sport do you like? B : I like soccer.	A : Can you sing well? B : Yes, I can.
	依頼する	Come here, please.	I'd like spaghetti.
	命令する	Go straight.	Turn right at the third corner.

外国語科

Q16 指導計画を作成する時に留意することは何ですか。

A 16

- 1 児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図ります。
- 2 学年ごとの目標を適切に定め、2 学年間を通じて外国語科の目標の実現を図ります。
- 3 言語活動を行う際は、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行います。
- 4 英語学習の特質を踏まえ、必要に応じて、特定の事項を取り上げて短時間学習を取り入れるなど、指導の効果を高めるよう工夫します。
- 5 題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、他の教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりします。
- 6 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行います。
- 7 専門性を一層重視した指導を行うことができる体制を構築するとともに、指導方法の工夫を行います。

指導計画作成上の留意点

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うため、単元終末段階の児童に望む具体的な姿のイメージをもち、実態に応じて単元を見通した課題設定をします。
- ・ 「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が実現されるよう、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら授業改善を行います。
- ・ 外国語活動や中・高等学校における指導と円滑に接続できるよう児童の発達の段階や学校・地域の実態に応じて適切に作成していきます。

イ 学年ごとの目標を適切に定め、2 学年間を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること。

- ・ 領域別の目標が明確に示されたことにより、その目標と関連付けられた学年ごとの「学習到達目標」を各学校において児童の発達の段階と実情を踏まえて設定します。

ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2 の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、第3 学年及び第4 学年において第4 章外国語活動を履修する際に扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

- ・ 単元又は1 単位時間の初期段階で英語の音声に慣れ親しませる活動を展開し、言語の意味や働きなどを理解させた上で、後期段階において、設定された場面の中で、自分の考えや気持ちを互いに伝え合う言語活動を展開するなどの学習過程の工夫を行います。
- ・ 外国語活動で扱った簡単な語句や基本的な表現などを、読んだり書いたりする言語活動の中で繰り返し扱うことで、より深い理解を促し、表現の運用能力を高めていくようにします。

エ 児童が英語に多く触れることが期待される英語学習の特質を踏まえ、必要に応じて、特定の事項を取り上げて第1 章総則の第2 の3 の(2)のウの(1)に掲げる指導を行うことにより、指導の効果を高めるよう工夫すること。このような指導を行う場合には、当該指導のねらいやそれを関連付けて指導を行う事項との関係を明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して、資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。

- ・ 基本的な語句や表現などは、場面や活動などを替えながら、繰り返し学習させることで定着を図ることが期待されることから、児童や学校・地域の実態を踏まえ、「時間」という資源をいかに活用するかという視点で指導計画を見直し、カリキュラム・マネジメントにより計画的・組織的に教育活動の質の向上を図ります。

(時間確保の例)

- ・ 朝の時間、昼休み前後の時間、放課後の時間などを活用した、10分から15分の短時間学習。
- ・ 45分と15分を組み合わせた60分授業。
- ・ 長期休業期間の調整や土曜日を活用した授業。

- ・ 短時間または長時間の授業時間の設定に当たっては、「教師が、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した中で、その指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任をもって行う体制が整備されている」ことが必要です。さらに、以下の点にも留意します。

外国語科の特質を踏まえた検討を行うこと。

単元や題材といった時間や内容のまとまりの中に適切に位置付けることにより、バランスの取れた資質・能力の育成に努めること。

授業のねらいを明確にして実施すること。

教科書や、教科書と関連付けた教材を開発するなど、適切な教材を用いること。

(学習活動の例)

短時間：場面設定をした上で、必要な語句や基本的な表現を繰り返し聞いたり話したりする活動や、文字を読んだり書いたりする活動など。

長時間：単元の最後の時間に、意味のある場面や状況を設定し、深まりのある言語活動。

オ 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他の教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。

- ・ 児童が興味・関心を示す題材を取り扱い、児童がやってみたいと思うような活動を通して、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養います。
- ・ 広く言語教育として、国語科をはじめとした学校における全ての教育活動と積極的に結び付けます。

【他教科等との関連付けの例】

(国語科)

- ・ 中学年において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考える学習をしたことを生かして、自己紹介等で、伝える内容を整理して話す。
- ・ 国語科の学習や言語活動に結びつくよう指導の時期を工夫したり、関連のある学習内容や言語活動を取り上げた単元の設定を工夫したりすることなどが考えられる。
- ・ 中学年において、主語と述語との関係について学習したことを踏まえて、日本語と比較する中で、英語の語順に気付かせる。
- ・ 第3学年において、ローマ字を学習したことを生かし、英語の子音の音を意識させる。

(音楽科)

- ・ 歌ったり打楽器を演奏したりする学習を、チャンツや歌などの英語の音声やリズムに慣れ親しむ活動の中で生かす。

(図画工作科)

- ・ 作成した作品を、Show and Tell の活動の中で紹介する。

(学校行事)

- ・ 絵本等を活用した英語劇を、学習発表会などで発表する。

カ 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

- ・ 目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないように留意するとともに、児童の学習負担や心理面にも配慮します。

【配慮の例】

- ・ 音声を聞き取ることが難しい場合、外国語と日本語の音声やリズムの違いに気付くことができるよう、リズムやイントネーションを、教員が手拍子を打つ、音の強弱を手を上下に動かして表す。
- ・ 本時の流れが分かるように、本時の活動の流れを黒板に記載しておく。
- ・ 文字数が多い単語や、文などの文字情報になると、読む手掛かりをつかんだり、細部に注意を向けたりするのが難しい児童の場合、外国語の文字を提示する際に字体をそろえたり、線上に文字を書いたり、語彙・表現などを記したカードなどを黒板に貼る際には、貼る位置や順番などに配慮する。

キ 学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。

- ・ 児童にとって興味・関心のある題材や活動を設定したり、児童の不安を取り除き、新しいものへ挑戦する気持ちや失敗を恐れない雰囲気醸成したりするためには、豊かな児童理解と高まり合う学習集団づくりとが指導者に求められることから、学級担任の教師の存在は欠かせません。
- ・ 実際の授業を実施するに当たっては、学級担任の教師が指導する場合は、専門性を有する教師を校内で「中核教員」として位置付けるなどし、当該教師を中心とした校内研修を充実させることにより学級担任の教師の指導力を向上させることに努めます。
- ・ 専門性を有する教師が専科指導を行うなど、校内体制の整備を進めることも大切です。
- ・ 児童がネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などとのコミュニケーションを通じて、標準的な英語音声に接し、正確な発音を習得する、英語で情報や自分の考えを述べるとともに、相手の発話を聞いて理解するための機会が日常的に確保されるようにします。

外国語科

Q17 内容の取扱いについて配慮することは何ですか。

A17

- 1 言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導するとともに、児童の発達の段階に応じて、受容語彙と発信語彙とに分けて指導を行います。
- 2 日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して言語材料を指導するとともに、音声と文字とを関連付けて指導します。
- 3 語順等の違いや、関連のある文や文構造のまとまりを認識できるようにするために、言語活動と効果的に関連付けて指導します。
- 4 身近で簡単な事柄について、質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、学習形態について適宜工夫します。
- 5 視聴覚教材等を有効活用し、児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図ります。
- 6 コミュニケーションの目的や場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しや振り返りができるようにします。

指導計画作成上の配慮事項

ア 2の(1)に示す言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。また、児童の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。

- ・ 児童の学習負担や学習の進捗状況を考慮し、必要に応じて平易なものを再学習してから難しいものに取り組むなどの配慮をします。
- ・ 語彙には受容語彙と発信語彙があることに留意することと同様に、領域別の目標に応じて、ある言語材料については、その意味を捉えることができるように指導することに留め、表現できるようにすることまで求めないことも重要です。
- ・ 高度な言語活動を目指そうとするあまり、児童に過度の学習負担を強いることのないように配慮し、2学年間を見通した指導計画を作成します。

イ 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して2の(1)のアに示す言語材料を指導すること。また、音声と文字とを関連付けて指導すること。

音声で十分慣れ親しんだ表現について読んだり書いたりすることの指導を求めたもの。

- ・ 音声は、繰り返し触れさせたり活用したりする中で、英語の音声の特徴に気付かせ、必要に応じて発音練習などを通して指導します。
- ・ 語の中から文字を取り出して行う発音練習は、「読むこと」と「書くこと」の言語活動のために行います。
- ・ 音声で十分慣れ親しんでいない語の綴りを提示して音声化する練習や、発音と綴りを関連付けた指導はしないことに留意します。

ウ 文や文構造の指導に当たっては、次の事項に留意すること。

- (ア) 児童が日本語と英語との語順等の違いや、関連のある文や文構造のまとまりを認識できるようにするために、効果的な指導ができるよう工夫すること。
- (イ) 文法の用語や用法の指導に偏ることがないように配慮して、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。

【(ア)の指導例】

主語 + 動詞 + 補語という文構造を用いて人物を紹介する際、以下のように音声とともに英文を列挙して提示することで、isが共通して用いられることや、isの後ろに説明する語句が続くことなどに気付かせる。

This is my hero.

He is a good tennis player.

He is cool.

【(イ)の指導例】

動名詞や過去形を扱う際、語形変化の練習をするのではなく、I like playing soccer.のように好きなことを紹介したり、I enjoyed fishing.や I saw the blue sea.のように経験したことを伝えたりする表現として言語活動の中で活用できるように指導する。

エ 身近で簡単な事柄について、友達に質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際、他者とコミュニケーションを行うことに課題がある児童については、個々の児童の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫すること。

- ・ 学習形態を工夫する際は、多様な言語の使用場面を設定したり、既得の語句や表現を使用して、会話を広げるよう促したりする指導を行います。
- ・ 他者とコミュニケーションを行うことに課題がある児童については、その児童が日頃から関わることのできる児童をペアの相手やグループのメンバーに意図的に配置したり、教師やALT等とペアを組んだりするなどの工夫を行います。

オ 児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

- ・ 視聴覚教材の活用を図る際は、活動を行う際の生きたモデルや、コミュニケーションの働きなどを示すことができるなどの特性を踏まえ、それらを使う目的を明確にし、児童や学校及び地域の実態に応じたものを選択することが大切です。
- ・ 短時間学習を行う場合に、指導を効率化し、児童の興味・関心を高めるために、デジタル教材等の活用が考えられます。
- ・ 「読むこと」や「書くこと」の指導場面で、デジタル教材などにより読み聞かせなどの効果を高めたり、文とその意味をイラストで添えて語順への意識を高めたりする指導が考えられます。

カ 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。

- ・ 学習到達目標を踏まえ、児童がコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して学習に臨むことができるよう、どのような言語活動を行うのかを明確に示すことにより、児童自らが、学習の見通しを立て、主体的に学習活動に取り組み、言語活動の質の高まりによる考えの変容について、自ら学習をまとめたり、振り返ったりすることが促されるようにします。

外国語科

Q18教材選定についてはどのようなことに配慮すればよいですか。

A 18

- 1 教材の選定においては、五つの領域別の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を総合的に育成するためのものであることに留意し、その際に、領域別音目標と内容との関係が、単元など内容や時間のまとまりごとに明確になっている必要があります。
- 2 コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を総合的に育成する観点から、内容は、「言語の使用場面」や「言語の働き」と併せて指導されることが重要で、こうした指導に資する教材を選定します。
- 3 世界の人々を理解するために、英語以外の言語を使う人々の日常生活や日本人の日常生活を、児童の発達の段階や興味・関心に即して取り上げるようにします。

教材選定の観点

ア 教材は、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を総合的に育成するため、1に示す五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について、単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げること。

イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点到に配慮すること。

(ア) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てることに役立つこと。

(イ) 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと。

(ウ) 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められる我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うことに役立つこと。

- ・ グローバル化が進展する中で、多様な考え方を理解し、柔軟に対応することや、公正な判断力を養い、相手の状況や立場を共感的に理解できる心情を育てるために、児童が、様々な人々の行動や考え方等が示された事例などに接することができるような教材を選ぶようにします。
- ・ 英語の学習を通して、我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知るようになるとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度やお互いの文化を尊重する態度を育成することができるような教材を選ぶようにします。
- ・ 国際社会と向き合って生きていくために、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養うことに役立つもので、かつ、日本の文化や価値観、考え方などについての自覚を高めることができるような教材を選ぶようにします。

(参考資料) 文部科学省作成新教材 中学年用「Let's Try!」及び高学年用「We Can!」の概要

1 第3学年「Let's Try! 1」

単元	単元名	学習内容
1	Hello! あいさつをして友達になろう	世界の挨拶, 自己紹介(名前)
2	How are you? ごきげんいかが?	ジェスチャー, 感情や状態の表現
3	How many? 数えてあそぼう	20までの数
4	I like blue. すきなものをつたえよう	好きなものの伝え合い
5	What do you like? 何が好き?	何が好きかの伝え合い
6	ALPHABET アルファベットとなかよし	アルファベットの大文字
7	This is for you. カードを送ろう	いろいろな形を集めたカード作
8	What's this? これってなあに?	クイズ大会(What's this?)
9	Who are you? きみはだれ?	短い話(絵本)の概要把握

2 第4学年「Let's Try! 2」

単元	単元名	学習内容
1	Hello, world! 世界のいろいろなことばであいさつをしよう	世界の様々な挨拶
2	Let's play cards. すきな遊びをつたえよう	好きな遊びの尋ね合い
3	I like Mondays. 好きな曜日は何かな?	一週間の予定や曜日
4	What time is it? 今, 何時?	世界の時差と好きな時間
5	Do you have a pen? おすすめの文房具セットをつくろう	友達の好みに合う文房具セット
6	Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう	文字クイズ
7	What do you want? ほしいものは何かな	オリジナルピザの紹介(食材, want)
8	This is my favorite place. お気に入りの場所をしょうかいしよう	校内の好きな場所への案内と紹介
9	This is my day. ~"Good Morning"~ ぼく・わたしの一日	短い話(絵本)の概要把握

3 第5学年「We Can! 1」

単元	単元名	学習内容
1	Hello, everyone. アルファベット・自己紹介	自己紹介と名前のスペリング, 大文字の識別と文字の名称の読み
2	When is your birthday? 行事・誕生日	誕生日とバースデーカード作り, 大文字の書写
3	What do you have on Monday? 学校生活・教科・職業	時間割と世界の学校生活, 小文字の識別と文字の名称の読み
4	What time do you get up? 一日の生活	日課・頻度の表現, 小文字の書写
5	She can run fast. He can jump high. できること	身近な人(三人称)ができること, 文字の音への気付き
6	I want to go to Italy. 行ってみたい国や地域	行きたい国, ポスター等の文字を読み, 語句の書き写し
7	Where is the treasure? 位置と場所	道案内(位置と場所), 語句の書き写し
8	What would you like? 料理・値段	レストランでの丁寧な言い方, 語句の書き写し
9	Who is your hero? あこがれの人	自分の尊敬する人, 語句や表現の書き写し

4 第6学年「We Can! 2」

単元	単元名	学習内容
1	This is ME! 自己紹介	自己紹介, 英語らしい音への気付き
2	Welcome to Japan. 日本の文化	日本文化のよさの再発見, 例を参考にした書き取り
3	He is famous. She is great. 人物紹介	人物紹介, 例を参考にした書き取り
4	I like my town. 自分たちの町・地域	自分の住んでいる地域, 例を参考にした書き取り
5	My Summer Vacation 夏休みの思い出	夏休みの思い出, 過去形, 例を参考にした書き取り
6	What do you want to watch? オリンピック・パラリンピック	オリンピック・パラリンピック, 見たい競技についての読み書き
7	My Best Memory 小学校生活・思い出	小学校生活の思い出, 過去形, 例を参考にした書き取り
8	What do you want to be? 将来の夢・職業	将来の夢・職業, 例を参考にした書き取り
9	Junior High School Life 中学校生活・部活動	中学校生活, 推測しながらの読み

外国語科

Q19 道徳教育との関連はどのように図ればよいですか。

A19

- 1 学習活動や学習態度への配慮，教師の態度や行動による感化とともに，外国語科と道徳教育との関連を明確に意識しながら，適切な指導を行う必要があります。
- 2 外国語科の年間指導計画と，道徳教育の全体計画との関連，指導の内容及び時期等に配慮し，両者が相互に効果を高め合うようにします。

第3章 指導計画の作成と内容の取り扱いの2

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき，道徳科などとの関連を考慮しながら，第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について，外国語科の特質に応じて適切な指導をすること。

「学校における道徳教育は，特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道徳の時間はもとより，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，児童の発達の段階を考慮して，適切な指導を行う」と規定されています。

第2章の第1節の第1目標の(3)

外国語を通して，言語やその背景にある文化に対する理解を深め，相手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

- ・ 外国語の背景にある文化に対する理解を深めることは，世界の中の日本人としての自覚をもち，国際的視野に立って，世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながります。
- ・ 他者に配慮することは，外国語の学習を通して，他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し，多面的思考ができるような人材を育てることにつながります。
- ・ 外国語科で扱った内容や教材の中で適切なものを，道徳科に活用するようにします。
- ・ 道徳科で取り上げたことに関係のある内容や教材を外国語活動で扱う場合には，道徳科における指導の成果を生かすように工夫することも考えられます。
- ・ 外国語活動の年間指導計画の作成などに際して，道徳教育の全体計画との関連，指導の内容及び時期等に配慮し，両者が相互に効果を高め合うようにします。

(参考資料) 第3章特別の教科道徳の第2に示す内容

A 主として自分自身に関すること

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
善悪の判断 自律 自由と責任	よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。	正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。	自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。
正直 誠実	うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。	過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。	誠実に、明るい心で生活すること。
節度 節制	健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。	自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。	安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。
個性の伸長	自分の特徴に気付くこと。	自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと。	自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。
希望と勇気 努力と強い意志	自分のやるべき勉強や仕事をし、しっかりと行うこと。	自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。	より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。
真理の探究			真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。

B 主として人との関わりに関すること

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
親切 思いやり	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。
感謝	家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。	日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。
礼儀	気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。	時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。
友情 信頼	友達と仲よくし、助け合うこと。	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
相互理解 寛容		自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
規則の尊重	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。
公正 公平 社会正義	自分の好き嫌いとらわれないで接すること。	誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。	誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。
勤労 公共の精神	働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。	働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。	働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。
家族愛 家庭生活の充実	父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。	父母、祖父母を敬愛し、家族みんなと協力し合って楽しい家庭をつくること。	父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。
よりよい学校生活 集団生活の充実	先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。	先生や学校の人々を敬愛し、みんなと協力し合って楽しい学級や学校をつくること。	先生や学校の人々を敬愛し、みんなと協力し合ってよりよい学級や学校をつくることとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。
伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度	我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつこと。	我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。
国際理解 国際親善	他国の人々や文化に親しむこと。	他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。	他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
生命の尊さ	生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。	生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。
自然愛護	身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。	自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。	自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。
感動 畏敬の念	美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。	美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。	美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。
よりよく生きる喜び			よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。

外国語活動・外国語科

Q20 移行期間にはどのような指導を行えばよいですか。

A 20

1 平成30, 31年度中の第5, 6学年

- (1) 新たに年間15単位時間を加え, 50単位時間を確保し, 外国語活動の内容に加えて, 外国語科の内容を扱います。
- (2) 外国語科の内容については, 中学校との接続の観点から最低限必要な内容と, それを活用して行う言語活動を中心に扱います。
- (3) 教材は, Hi, friends! や, 新学習指導要領に対応した教材から, 必要な内容が配布されます。

2 平成30, 31年度中の第3, 4学年

- (1) 新たに年間15単位時間を確保し, 外国語活動を実施します。
- (2) 高学年との接続の観点から最低限必要な内容と, それを活用して行う言語活動を中心に扱います。
- (3) 教材は, 新学習指導要領に対応した教材から, 必要な内容が配布されます。児童の発達の段階を考慮して表現を選定するとともに, 児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定し, 児童が積極的にコミュニケーションを図ることができるように指導します。

3 授業時数及び総授業時数は, 現行の時数を標準とし, 「外国語活動の授業時数の授業の実施のために特に必要がある場合には, 年間総授業時数及び総合的な学習の時間の授業時数から15単位時間を超えない範囲内の授業時数を減じることができること」とされています。

4 学習評価は, 現行学習指導要領の3観点で行います。

1 取扱い内容

ア 新学習指導要領の外国語活動(第3, 4学年)及び外国語科(第5, 6学年)の内容の一部を加えて必ず取り扱うものとする。

- ・ 平成30年度及び平成31年度の第3学年及び第4学年の外国語活動の指導に当たっては, 新小学校学習指導要領の規定の全部又は一部によるものとし, 新小学校学習指導要領第4章第2の2〔第3学年及び第4学年〕(1)イ(ア)及び(3)に係る事項は必ず取り扱うものとする。
【()英語の音声やリズムなどに慣れ親しむ, ()日本語との違いを知り, 言葉の面白さや豊かさに気付く, ()聞くこと及び話すこと〔やり取り〕〔発表〕の言語活動の一部】
- ・ 平成30年度及び平成31年度の第5学年及び第6学年の外国語活動の指導に当たっては, 現行小学校学習指導要領に規定する事項に, 新小学校学習指導要領第2章第10節の2の全部又は一部を加えて指導するものとし, 新小学校学習指導要領第2章第10節の2〔第5学年及び第6学年〕(1)ア, 同イ(ア), 同イ(ア)e及びf, 同イ(イ)並びに2〔第5学年及び第6学年〕(3)イ及び同オに係る事項は必ず取り扱うものとする。【()音声, 活字体の大文字と小文字, ()文及び文構造の一部, ()読むこと及び書くことの言語活動の一部】

2 移行期間における標準授業時数

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
外国語活動の授業時数	-	-	15	15	50	50
総授業時数	850	910	960	995	995	995

3 学習評価

現行学習指導要領の3観点で評価する。指導要録への記載は第5, 6学年は外国語活動の欄に, 第3, 4学年は総合所見欄に記入する。

4 教材等

- (1) Hi, friends! 1, 2 (現在配布されている版と同じもの)
- (2) Hi, friends! Story Books (第3, 4学年用) 及び Hi, friends! plus (第5, 6学年用)
平成29年3月に、「次期学習指導要領に向けた指導力向上のための文部科学省作成補助教材等について」(平成28年11月)とDVD(2枚)を配布済み
- (3) 文部科学省作成の新教材(第3~第6学年用, 全210時間分)
児童冊子及び指導書, 年間指導計画例, 活動例, 学習指導案例, デジタル教材
- (4) 「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」

5 移行期間中に必ず取り扱う事項

- (1) 第3, 4学年 小学校学習指導要領 第4章第2の2

必ず取り扱うもの	学習指導要領における対応箇所
(1)イ(ア)	(1) 英語の特徴等に関する事項 イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。 (ア) 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに, 日本語との違いを知り, 言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
(3)	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 言語活動に関する事項(以下省略)

- (2) 第5, 6学年 小学校学習指導要領 第2章第10節の2

必ず取り扱うもの	学習指導要領における対応箇所
(1)ア	(1) 英語の特徴やきまりに関する事項 ア 音声 次に示す事項のうち基本的な語や句, 文について取り扱うこと。 (ア) 現代の標準的な発音 (イ) 語と語の連結による音の変化 (ウ) 語や句, 文における基本的な強勢 (エ) 文における基本的なイントネーション (オ) 文における基本的な区切り
イ(ア)	イ 文字及び符号 (ア) 活字体の大文字・小文字
エ(ア)e及びf, 同エ(イ)	エ 文及び文構造 (ア) 文 e 代名詞のうち, I, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの f 動名詞や過去形のうち, 活用頻度の高い基本的なものを含むもの (イ) 文構造 a [主語+動詞] b [主語+動詞+補語]のうち, 主語+be動詞+名詞/代名詞/形容詞 c [主語+動詞+目的語]のうち, 主語+動詞+名詞/代名詞
(3) イ及び同オ	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 言語活動に関する事項 イ 読むこと(以下省略) オ 書くこと(以下省略)